

# 令和二年度 卒業証書授与式 式辞

本校五十六期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、平成三十年四月に喜びと希望を胸に本校に入学しました。以来三年間にわたって、学習はもちろん、学校行事、生徒会活動、部活動などに全力で取り組み、級友や仲間達とともに友情を育みながら高校生活を過ごしました。最終学年でのコロナ感染拡大は、不安な気持ちで一杯だったと思いますが、ともに支え合った友人との思い出は、かけがいのないものであって欲しいと願います。

高校時代の経験は、一生忘れることの出来ない財産です。どうか、そのことを心に刻み、本校でともに学び、支え合った友達、さらに皆さんを守り育ててくれた保護者の方々、教え導いていただいた先生方、その他にも多くの支えがあったことを決して忘れないでください。感謝の気持ちを持って、これからの人生を力強く歩いて欲しいと思います。

さて、今世界は気候変動による自然環境問題を始め、国際紛争、食糧問題、人口増加、経済格差など劇的な変化の中にあります。また、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、世界中の人々の生活に多くの不安と課題をもたらしています。

皆さんが生きるこれからの世界は、決して明るい未来が約束されているわけではありません。しかし、これからの未来には、逆にたくさんのチャンスがあるとも言えます。あくまでも予測と現実は違います。いろいろな情報の中で自分を見失うことのないようにしっかりと自分を持って、新たなステージへと踏み出すために、次の二つのことを伝えたいと思います。

一つ目は、古代ギリシャの哲学者、ソクラテスの言葉に「勉学は光であり、無学は闇である」とあります。この言葉は、学んで知ることは、闇の中で見えないものを見えるように照らす光であり、物事の歩みを確実に進めることが出来るという意味です。これからの未来がどのように変わっても、その社会の変化に向き合うことは、大切です。これからみなさんの人生は、平坦な道ばかりではなく、時に難しい課題に直面することもあると思います。様々な情報に振り回されることなく、自ら学んで知り得た知識と技術を持って考え、判断し、行動に起こすことを願います。

二つ目は、本校建学の精神「正直・純潔・無私・愛」を忘れないで欲しいと言うことです。本校は私立高校として、今から五十九年前に設立されました。当時、日本は高度経済成長期の中にあり、本校設置に当たり、どんな人間を育てたいのかを創立者の現学園長中村有三先生は、次のように語っております。

「これから迎える新しい時代が、どんな時代であっても本校の目指す学校とは、建学の精神を踏まえて、広い視野と高い志、道義心と行動力を兼ね備えた人間性豊かな人材の育成にある」と。卒業生の皆さんにとって、この建学の精神を、これから人生を歩む上での指針にして欲しいと願います。

最後に、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様にとりましても、お子様の三年間の成長を前に、喜びもひとしおのことと推察申し上げます。この場にいらして、ぜひお子様のたくましく成長した姿を見ていただきたかったです。お子様の健やかな成長を願って支えていただいた皆様にはさぞかし苦勞も多かったと存じます。今日の良き日を迎え、立派に成長されたお子様のご卒業に、教職員一同、心よりお慶び申し上げます。本日まで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

また、本校との連携をいつも大切に考えてくださっている、系列校・姉妹学園の皆様に改めて感謝を申し上げます、式辞といたします。

令和三年三月一日

学校法人 群馬育英学園  
前橋育英高等学校  
校長 金子 雅人